

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

DRAW TYPE OPTICAL DISK RECORDER

Patent Number: **JP6076288**

Publication date: 1994-03-18

Inventor(s): UDAGAWA OSAMU; others: 01

Applicant(s): SONY CORP

Requested Patent: **JP6076288**

Application Number: **JP19920225995 19920825**

Priority Number(s):

IPC Classification: **G11B7/00 ; G11B7/125**

EC Classification:

Equivalents: **JP3089844B2**

Abstract

PURPOSE: To stably and properly record in a long time by fetching a target value, etc., at the time of performing so as to become a fixed asymmetry to a test write area and a data write area as an initial value and a present value, and deciding the present value of the target value from them.

CONSTITUTION: When data is written in a DRAW type optical disk 5 by a control means 2, first of all, in the test write area 5a, the target values LP1, a pit level P1 and a land level L1, and read output level R1 at the time of performing so as to become the fixed asymmetry are stored as the initial values LPi, Pi, Li, Ri. Then, when the data is written in the data write area 5b, the present target value LP1, the pit level P1 and the land level L1, and the read output level R1 are fetched as the present values LPn, Pn, Ln, Rn. Then, this device is controlled so that the present value LPn of the target value is decided newly based on these initial values and present values.

Data supplied from the **esp@cenet** database - I2

10/04/11
10/04/11
10/04/11
10/04/11



(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-76288

(43) 公開日 平成6年(1994)3月18日

(51) Int.Cl.⁵

G 11 B 7/00

識別記号

府内整理番号

F 1

技術表示箇所

7/125

L 9195-5D

N 9195-5D

C 7247-5D

審査請求 未請求 請求項の数3(全9頁)

(21) 出願番号

特願平4-225995

(22) 出願日

平成4年(1992)8月25日

(71) 出願人

000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者

宇田川 治

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ

ー株式会社内

(72) 発明者

飯村 紳一郎

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ

ー株式会社内

(74) 代理人

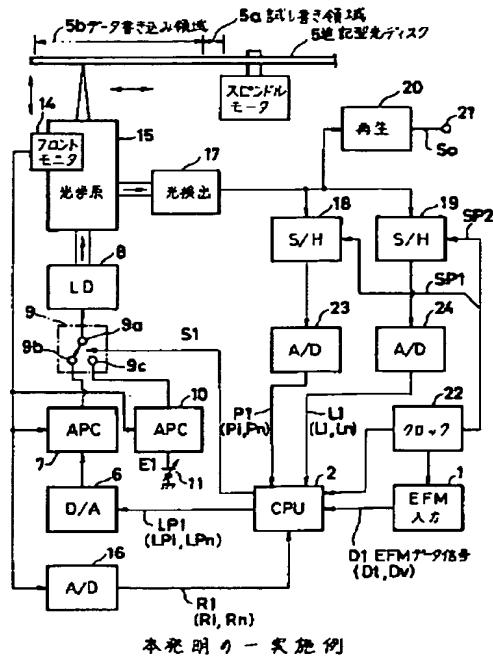
弁理士 松隈 秀盛

(54) 【発明の名称】 追記型光ディスク記録装置

(57) 【要約】

【目的】 追記型光ディスクへのデータの最適記録を連続して安定に行う。

【構成】 CPU 2により、追記型光ディスク 5 にデータを書き込む際、まず、試し書き領域 5a において、一定のアシンメトリになると、ときのレーザ出力目標値の初期値 L_{P1} 、ピットレベルの初期値 P_1 、ランドレベルの初期値 L_1 およびリード出力レベルの初期値 R_1 をそれぞれ記憶し、次に、データ書き込み領域 5b にデータを書き込む際に、レーザ出力目標値の現在値 P_n 、ピットレベルの現在値 P_n 、ランドレベルの現在値 L_n 、およびリード出力レベルの現在値 R_n をそれぞれ取り込み、新たなレーザ出力目標値 P_n を決定している。このため、刻々と変化するレーザダイオードの温度変化、追記型光ディスク 5 のそり・感度むらなどの変化要因に追従してレーザ光の発光出力強度を変化させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 追記型光ディスクにピットを形成するために書き込み用光ビームの強度を目標値に制御するレーザ駆動手段と、

上記書き込み用光ビームによりピットを形成中にその反射光強度をピットレベルとして検出する第1のサンプルホールド手段と、

上記ピット形成後にランドに照射された読みだし用光ビームの反射光強度をランドレベルとして検出する第2のサンプルホールド手段と、

上記読みだし用光ビームの強度を検出し、それをリード出力レベルとして出力するリード出力レベル形成手段と、

上記レーザ駆動手段、上記第1および第2のサンプルホールド手段および上記リード出力レベル形成手段に接続される制御手段とを有し、

上記制御手段は、上記追記型光ディスクにデータを書き込む際に、まず、試し書き領域において、一定のアシンメトリになるようにしたときの上記目標値、上記ピットレベルおよびランドレベル、および上記リード出力レベルをそれぞれ初期値として記憶し、次に、データ書き込み領域において、データを書き込む際に、現在の上記目標値、上記ピットレベルおよびランドレベル、および上記リード出力レベルをそれぞれ現在値として取り込み、上記初期値および上記現在値に基づき、上記目標値の現在値を新たに決定するように制御する追記型光ディスク装置。

【請求項2】 上記制御手段における上記目標値の現在値が

目標値の初期値 × (ピットレベルの現在値 / ピットレベルの初期値) × × (ランドレベルの初期値 / リード出力レベルの初期値) × (リード出力レベルの現在値 / ランドレベルの現在値)

として決定されるようにした請求項1記載の追記型光ディスク装置。

【請求項3】 上記ピットレベルの現在値および初期値が、E FMデータのうち4Tピット位置の現在値および初期値である請求項1または請求項2記載の追記型光ディスク装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、例えば、追記型光ディスクに光ビームによりデータの書き込みを行うようにした追記型光ディスク記録装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 例えば、コンパクトディスク(CD)と同じサイズのディスクの一面に有機系記録材料を塗布し、この一面に光ビームにより任意のデータを書き込むようにされた追記型光ディスクが知られている。この追記型光ディスクでは、基本的には、最内周側に試し書き

領域(PCA: Power Control Area)が形成され、その外側にデータ書き込み領域が形成されている。

【0003】 このような追記型光ディスクにデータを書き込む際には、再生信号のアシンメトリが一定となるよう上記試し書き領域に試し書きを行い、その結果として得られた上記アシンメトリが一定になるレーザ光の出力を最適出力とし、この最適出力を保持しながら、データ書き込み領域にデータを書き込むようにしていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記した従来の追記型光ディスク記録装置では、たとえ、試し書き領域においてレーザ出力の最適出力を得て、その最適出力によりデータ書き込み領域にデータを書き込むようとしても、レーザ素子の発光出力の温度変化および追記型光ディスクの面内における感度むら、そりなどによって最適となるレーザ出力が上記データ書き込みエリア内で変化してしまい、結局、一定の、言い換えれば、最適なアシンメトリを保持しながら書き込みを行うことができないという問題があった。

【0005】 本発明はこのような課題に鑑みてなされたものであり、追記型光ディスクへのデータの最適記録を連続して長時間安定に行うことのできる追記型光ディスク記録装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、例えば、図1に示すように、追記型光ディスク5にピットを形成するために書き込み用光ビームの強度を目標値LP1に制御するレーザ駆動手段7と、上記書き込み用光ビームによりピットを形成中にその反射光強度をピットレベルP1として検出する第1のサンプルホールド手段18と、上記ピット形成後にランドに照射された読みだし用光ビームの反射光強度をランドレベルL1として検出する第2のサンプルホールド手段19と、上記読みだし用光ビームの強度を検出し、それをリード出力レベルとして出力するリード出力レベル形成手段14と、レーザ駆動手段7、第1および第2のサンプルホールド手段18、19、およびリード出力レベル形成手段14に接続される制御手段2とを有し、制御手段2は、追記型光ディスク5にデータを書き込む際に、まず、試し書き領域5aにおいて、一定のアシンメトリになるようにしたときの目標値LP1、ピットレベルP1およびランドレベルL1、およびリード出力レベルR1をそれぞれ初期値LPi、Pi、Li、Riとして記憶し、次に、データ書き込み領域5bにおいて、データを書き込む際に、現在の目標値LP1、ピットレベルP1およびランドレベルL1、およびリード出力レベルR1をそれぞれ現在値LPn、Pn、Ln、Rnとして取り込み、初期値LPi、Pi、Li、Riおよび現在値LPn、Pn、Ln、Rnに基づき、目標値の現在値LPnを新たに決定するよ

うに制御するものである。

【0007】

【作用】本発明によれば、制御手段2により、追記型光ディスク5にデータを書き込む際に、まず、試し書き領域5aにおいて、一定のアシンメトリになるようにしたときの目標値LP1、ピットレベルP1およびランドレベルLP1、およびリード出力レベルR1をそれぞれ初期値LP1、P1、L1、R1として記憶し、次に、データ書き込み領域5bにおいて、データを書き込む際に、現在の目標値LP1、ピットレベルP1およびランドレベルLP1、およびリード出力レベルR1をそれぞれ現在値LPn、Pn、Ln、Rnとして取り込み、初期値LP1、P1、L1、R1および現在値LPn、Pn、Ln、Rnに基づき、目標値の現在値LPnを新たに決定するように制御するしている。このため、追記型光ディスク5へのデータの最適記録を連続して長時間安定を行うことができる。

【0008】

【実施例】以下、本発明追記型光ディスク記録装置の一実施例について図面を参照して説明する。

【0009】図1は、一実施例の構成を示している。

【0010】図1において、EFM(Eight to Fourteen Modulation)データ信号の入力部1から各種のEFMデータ信号D1が制御手段としてのCPU2に供給される。なお、入力部1に供給されるEFMデータ信号D1の基となるデータ信号は、図示しないホストコンピュータから供給され、この入力部1でEFMデータ信号D1に変換されるようになっている。

【0011】入力部1から出力されるEFMデータ信号D1としては、試し書き用の固定のEFMデータ信号Dtおよび画像データなどのEFMデータ信号Dvがある。

【0012】CPU2は、EFMデータ信号D1のハイレベル期間に追記型光ディスク5にピットを形成するため、書き込みレベルの現在のレーザ出力の目標値(以下、目標値の現在値という。)LPnをD/A変換回路6を通じて書き込み側のAPC(Automatic Power Control)回路7の基準入力側に供給するとともに、これに同期してレーザダイオード回路8の入力側に配置されるスイッチ9の制御端子にスイッチ9の切り換え制御信号S1を供給する。

【0013】図2は追記型光ディスク5の記録面の基本的な構成を示している。図2に示すように、追記型光ディスク5の内周側は、試し書き領域5aとして割り当られ、その外周側は、データ書き込み領域5として割り当られている。

【0014】スイッチ9は、切り換え制御信号S1により、追記型光ディスク5にピットを形成する書き込み動作の際(EFMデータ信号D1のハイレベルの期間)に

は、可動接点9aが書き込み側のAPC回路7側に接続されている固定接点9b側に切り換えられる。一方、形成されたピットおよびランドの読みだし動作の際およびEFMデータ信号D1のローレベル期間には、可動接点9aが読みだし側のAPC回路10に接続されている固定接点9c側に切り換えられる。

【0015】読みだし側のAPC回路10の基準入力側には、直流電源11から一定の直流電圧E1が供給されている。

【0016】スイッチ9の出力信号は、レーザダイオード回路8によりその出力信号に応じた強度の光ビームに変換され、その光ビームは光学系15に入射される。光学系15は、図示しないフォトダイオードを有するフロントモニタ14、図示しないコリメータレンズ、ビームスプリッタ、対物レンズ、円筒レンズ、フォーカスアクチュエータ、およびトラッキングアクチュエータなどを有しており、レーザダイオード回路8から入射された光ビームが上記コリメータレンズを通じて平行光とされた後、上記ビームスプリッタ、上記対物レンズを通じて集光され、集光された光ビームが追記型光ディスク5に照射される。

【0017】ここで、追記型光ディスク5に照射される光ビームの一部がフロントモニタ14によりフロントモニタ出力として出力される。このフロントモニタ出力は、書き込み用光ビームの強度と読みだし用光ビーム強度に比例した出力であり、APC回路7は、この書き込み用光ビームの強度に比例したフロントモニタ出力が比較入力に供給されることで、書き込み用光ビームのAPC制御を行う。また、APC回路10は、読みだし用光ビーム強度に比例したフロントモニタ出力が比較入力に供給されることで、読みだし用光ビームのAPC制御を行う。

【0018】なお、フロントモニタ出力は、A/D変換回路16によってデジタルデータ信号に変換され、そのうち、読みだし用光ビーム強度に比例したフロントモニタ出力がリード出力レベルR1としてCPU2に取り込まれる。

【0019】追記型光ディスク5からの反射光ビームは、光学系15を通じて、例えば、4分割フォトダイオードを有する光検出回路17に入射される。光検出回路17の出力信号は、ピットレベル検出用のサンプルホールド回路18とランドレベル検出用のサンプルホールド回路19に供給されるとともに、再生回路20に供給される。また、光検出回路17の出力信号に基づき周知のフォーカスサーボおよびトラッキングサーボが行われる。再生回路20の出力信号S0は、出力端子21を通じて波形観測装置、例えば、オシロスコープに供給される。

【0020】サンプルホールド回路18、19には、クロック発生回路22からサンプルホールドパルスSP

1, S P 2 が供給される。また、クロック発生回路 2 2 から E F M データ信号の入力部 1 と C P U 2 とに所定のクロック信号が供給される。

【0021】サンプルホールド回路 1 8, 1 9 の出力信号であるビットレベルとランドレベル（内容についてはそれぞれ後述する）とはそれぞれ、A/D 変換回路 2 3, 2 4 を通じてビットレベル P 1 およびランドレベル L 1 として C P U 2 に供給される。

【0022】次に上記実施例の動作について、図 3 に示すフローチャートをも参照して説明する。

【0023】まず、追記型光ディスクの試し書き領域 5 a を利用して、書き込み用光ビームの強度が最適となる一定のアシンメトリを得るために、E F M データ信号の入力部 1 から C P U 2 に試し書き用の固定の E F M データ信号 D t を供給する。

【0024】C P U 2 は、この試し書き用の固定の E F M データ信号 D t を取り込んだ後、これに応じて予め定められたレーザ出力目標値 L P 1 を D/A 変換回路 6 に供給する。この場合、D/A 変換回路 6, A P C 回路 7、スイッチ 9 およびレーザダイオード回路 8 を通じて、そのレーザ出力目標値 L P 1 に応じた強度の光ビームが光学系 1 5 から追記型光ディスク 5 の試し書き領域 5 a に照射され、E F M データ信号 D t に応じた所定長のビットが形成されるとともに、ビットが形成されなかった部分がランドになる。

【0025】この場合、この試し書き用の固定の E F M データ信号 D t に基づいて形成されるビットとランドは、それぞれ 3 T ビット～1 1 T ビットと 3 T ランド～1 1 T ランドであり、また、ビットとランドの個数は同数になっている。したがって、読みだし用光ビームによって読みだされ、光検出回路 1 7 を通じて再生回路 2 0 の出力側に得られる再生信号 S o のアシンメトリは一定値になる。例えば、その一定値がゼロ値のときには、再生信号 S o の振幅値の中央レベルが直流のゼロレベルに一致することになる。言い換えれば、再生信号 S o の振幅が、ゼロレベルの上下に同振幅になるときがアシンメトリがゼロ値であるといえる。このアシンメトリは、再生信号 S o をオシロスコープによって観測することにより分かる。

【0026】図 4 は、オシロスコープで観測される再生信号 S o の波形を概略的に示しており、ゼロレベルの上下における振幅 A と振幅 B との値から、アシンメトリは、次の式で求められる。

$$アシンメトリ = (1/2) \cdot \{ (B - A) / (B + A) \} \times 100 \quad [\%]$$

【0028】そこで、オシロスコープの管面波形を観測しながら、レーザ出力目標値 L P 1 を C P U 2 により可変することにより、試し書き領域 5 a において、一定のアシンメトリが得られるレーザ出力目標値 L P 1 を決定することができる。なお、一定のアシンメトリが得られ

るレーザ出力目標値 L P 1 は、自動的に得るように構成を変更することもできる。また、一定のアシンメトリの値としては、実験的に、ゼロ値よりも -4 % ～ -7 % の間の値にすることがデータエラーなどが最も少なくなるアシンメトリ値であることが発明者などによって確認されている。

【0029】そこで、試し書き領域 5 a において、その一定のアシンメトリ値、言い換えれば、最適のアシンメトリ値が得られたときのレーザ出力目標値 L P 1 をレーザ出力目標値の初期値 L P 1 (最適値) として C P U 2 に記憶する（フローチャート中、ステップ S 1 1）。

【0030】次に、このようにして決定された書き込み用レーザ出力目標値の初期値 L P 1 とその時点における読みだし用レーザ出力値、すなわち、フロントモニタ 1 4 からのフロントモニタ出力として A/D 変換回路 1 6 から C P U 2 に供給されるリード出力レベル R 1 が、リード出力レベルの初期値 R i として C P U 2 に記憶される（ステップ S 1 2）。

【0031】さらに、書き込み用レーザ出力目標値 L P 1 によってビットが形成されている間に 4 T ビット位置の反射光強度がサンプルホールド回路 1 8 によってサンプルホールドバルス S P 1 に基づきサンプルホールドされ、そのサンプルホールドされた値が A/D 変換回路 2 3 を介して、ビットレベルの初期値 P i として C P U 2 に記憶される（ステップ S 1 2）。

【0032】さらにまた、上記リード出力レベルの初期値 R i を記憶したときに、ランドに照射された読みだし用光ビームの反射光強度がサンプルホールド回路 1 9 によってサンプルホールドバルス S P 2 に基づきサンプルホールドされ、そのサンプルホールドされた値が A/D 変換回路 2 4 を介して、ランドレベルの初期値 L i として C P U 2 に記憶される（ステップ S 1 2）。

【0033】図 5 は、サンプルホールド回路 1 8, 1 9 に供給される上記した反射光強度の波形を概略的に示している。

【0034】図 5 中、0 T ビット位置から 1 1 T ビット位置間は、書き込み用光ビームの出力期間 T W であり、その他の区間が読みだし用光ビームの出力期間 T R である。反射光強度が 0 T ビット位置の直後にピーク値となるのは、追記型光ディスク 5 が鏡面になっているからであり、光ビームが連続して照射されることにより、反射光強度が小さくなる。

【0035】この実施例において、ビットレベルは 4 T ビット位置のビットレベル P 1 がサンプルホールド回路 1 8 によってサンプルホールドされるようになっている。4 T ビット位置のビットレベル P 1 をサンプルホールドすることにより、安定してビットレベル P 1 を検出できることが発明者などによって確認されている。また、ランドレベルは、反射光強度が安定した時点のランドレベル L 1 がサンプルホールドされるようになってい

る。なお、サンプルホールド位置（時点）は、クロック発生回路22から供給されるサンプルホールドパルスS P1, S P2の発生時点を制御することによって変化させることができるので、4Tビット位置に限らず、3Tビット位置または5Tビット位置など適宜変更することができる。

【0036】この実施例において、ステップS12においては、ビットレベルの初期値P_iとランドレベルの初期値L_iとリード出力レベルの初期値R_iとは、それぞれ、1分間に、約75回取り込まれ、それらの平均値が、ビットレベルの初期値P_i、ランドレベルの初期値L_i、およびリード出力レベルの初期値R_iとしてCPU2に記憶される。

【0037】このようにして、ステップS11とステップS12の結果、CPU2には、試し書き領域5aに試し書きを行うことにより、一定のアシンメトリが得られる、すなわち、最適書き込みが行われるレーザ出力目標値の初期値L_P1と平均値であるビットレベルの初期値P_iとランドレベルの初期値L_iとリード出力レベルの初期値R_iが記憶されることになる。

【0038】次に、追記型光ディスク5のデータ書き込み領域5bの内周側から外周側に向かって、順次、データを最適に、すなわち、上記一定のアシンメトリになるように書き込む過程、いわゆるランニングOPC (Optimum Power Control) 動作について説明する。

【0039】なお、次に説明するランニングOPC動作は、1トラックずつ行ってもよく、複数トラックずつ行ってもよい。

【0040】そこで、最初のトラックにデータを書き込む際には、上記のようにして得たレーザ出力目標値の初期値L_P1を現在のレーザ出力目標値（以下、レーザ出力目標値の現在値という。）L_{Pn}としてCPU2からD/A変換回路6に供給する。

【0041】そしてその時のビットレベルP_i、ランドレベルL_iおよびリード出力レベルR_iをそれぞれビットレベルの現在値P_n、ランドレベルの現在値L_nおよびリード出力レベルの現在値R_nとしてサンプルホールド回路18, 19でサンプルホールドした後、CPU2に取り込み記憶する（ステップS13）。

【0042】次に数1に基づき正規化したビットレベルの現在値（以下、正規化ビットレベルの現在値という。）P_{norm}を求める（ステップS14）。

【0043】

【数1】正規化ビットレベルの現在値P_{norm}=ビットレベルの現在値P_n／（レーザ出力目標値比×反射率比）

【0044】数1において、レーザ出力目標値比は、数2のように定義される。

【0045】

【数2】レーザ出力目標値比=レーザ出力目標値の現在値／レーザ出力目標値の初期値=L_{Pn}／L_{Pi}

【0046】数1において、反射率比は、数3のように定義される。

【0047】

【数3】反射率比=反射率の現在値／反射率の初期値=（ランドレベルの現在値／リード出力レベルの現在値）／（ランドレベルの初期値／リード出力レベルの初期値）=(L_n／R_n)／(L_i／R_i)

【0048】したがって、数1は、数4に示す文字式で表される。

【0049】

【数4】P_{norm}=P_n／[(L_{Pn}／L_{Pi})×{(L_n／R_n)／(L_i／R_i)}]

【0050】次に、このようにしてデータ書き込み領域5bの最初のトラックについて求めた正規化ビットレベルの現在値P_{norm}と、一定のアシンメトリが得られる最適値として試し書き領域5aを利用して求めておいたビットレベルの初期値P_iとの大小を比較する（ステップS15）。

【0051】それらが等しい値であった場合には、上記最初のトラックには一定のアシンメトリで最適に書き込みが行われたものとする。その場合には、次に全てのトラックへの書き込み動作が終了したかどうかが判定され（ステップS18）、まだ、未書き込みのトラックが残っている場合には、レーザ出力目標値の現在値P_nを変更することなく、再びステップS13からステップS18までの処理を行う。

【0052】ステップS15の判定において、P_{norm} > P_iの場合には、反射光強度が最適の反射光強度よりも大きいのであるから、レーザ出力目標値の現在値L_{Pn}を一単位（例えば、フルスケールが256レベルである場合には、例えば、1/256レベル）増加させて、反射光強度が小さくなるようにする（ステップS16）。

【0053】また、ステップS15の判定において、P_{norm} < P_iの場合には、反射光強度が最適の反射光強度よりも小さいのであるから、レーザ出力目標値の現在値L_{Pn}を一単位（同様に、1/256レベル）減少させて、反射光強度が大きくなるようにする（ステップS17）。

【0054】このようにして、次の書き込み領域（トラック）に照射される光ビームの出力強度が最適値、すなわち、一定のアシンメトリが得られるよう決定されることで、追記型光ディスク5のデータ書き込み領域5bの全面にわたって均一に書き込むことができるようになる。

【0055】結局、決定しようとする光ビーム出力強度、言い換えれば、レーザ出力目標値の現在値L_{Pn}は、上記数2において、レーザ出力目標値の現在値L_P

9

n について解くことにより、次の数5のように表すことができる。

【0056】

$$【数5】 LPn = (Pn / Pn_{norm}) \times (Li / Ri) \times (Rn / Ln) \times Lpi = (Pn / Pi) \times (Li / Ri) \times (Rn / Ln) \times Lpi$$

【0057】このように上記した実施例によれば、CP U2により、追記型光ディスク5にデータを書き込む際に、まず、試し書き領域5aにおいて、一定のアシンメトリになるようにしたときのレーザ出力目標値の初期値LPi、ピットレベルの初期値Pi、ランドレベルの初期値Liおよびリード出力レベルの初期値Riをそれぞれ記憶し、次に、データ書き込み領域5bにデータを書き込む際に、レーザ出力目標値の現在値Pn、ピットレベルの現在値Pn、ランドレベルの現在値Ln、およびリード出力レベルの現在値Rnをそれぞれ取り込み、新たなレーザ出力目標値Pnが数5を満足するように決定している。このため、試し書き領域5aに書き込みを開始してから、追記型光ディスク5の全面への書き込みが終了するまでの間に、刻々と変化するレーザダイオードの温度変化、追記型光ディスク5のそり・感度むらなどの変化要因に追従してレーザ光の発光出力強度を変化させることができることになり、追記型光ディスク5へのデータの最適記録を連続して長時間安定に行うことができる。

【0058】なお、上記実施例においては、リード出力レベルR1についても考慮して制御しているが、リード出力レベルR1が変化しない場合には、上記数5中、Rn=Riとなり、リード出力レベルR1を考慮する必要がなくなる。

【0059】さらにまた、本発明は上記の実施例に限らず本発明の要旨を逸脱することなく種々の構成を探り得ることはもちろんである。

【0060】

10

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、制御手段により、追記型光ディスクにデータを書き込む際に、まず、試し書き領域において、一定のアシンメトリになるようにしたときの書き込み用光ビームの目標値、ピットレベルおよびランドレベル、およびリード出力レベルをそれぞれ初期値として記憶し、次に、データ書き込み領域において、データを書き込む際に、現在の上記目標値、上記ピットレベルおよびランドレベル、および上記リード出力レベルをそれぞれ現在値として取り込み、上記初期値および上記現在値に基づき、上記目標値の現在値を新たに決定するように制御するしている。このため、追記型光ディスクへのデータの最適記録を連続して長時間安定に行うことのできるできる。

【0061】したがって、本発明を利用して作成された書き込み済みの光ディスクは、エラーの少ない高品質なものになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による追記型光ディスク記録装置の一実施例の構成を示すブロック図である。

【図2】追記型光ディスクの説明のための線図である。

【図3】図1例の動作説明に供されるフローチャートである。

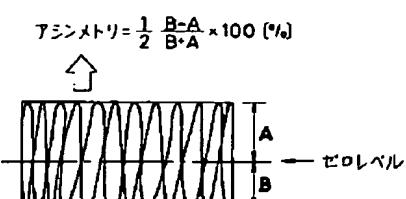
【図4】アシンメトリの説明に供される線図である。

【図5】レーザ光の反射光強度とピットレベルなどの関係の説明に供される線図である。

【符号の説明】

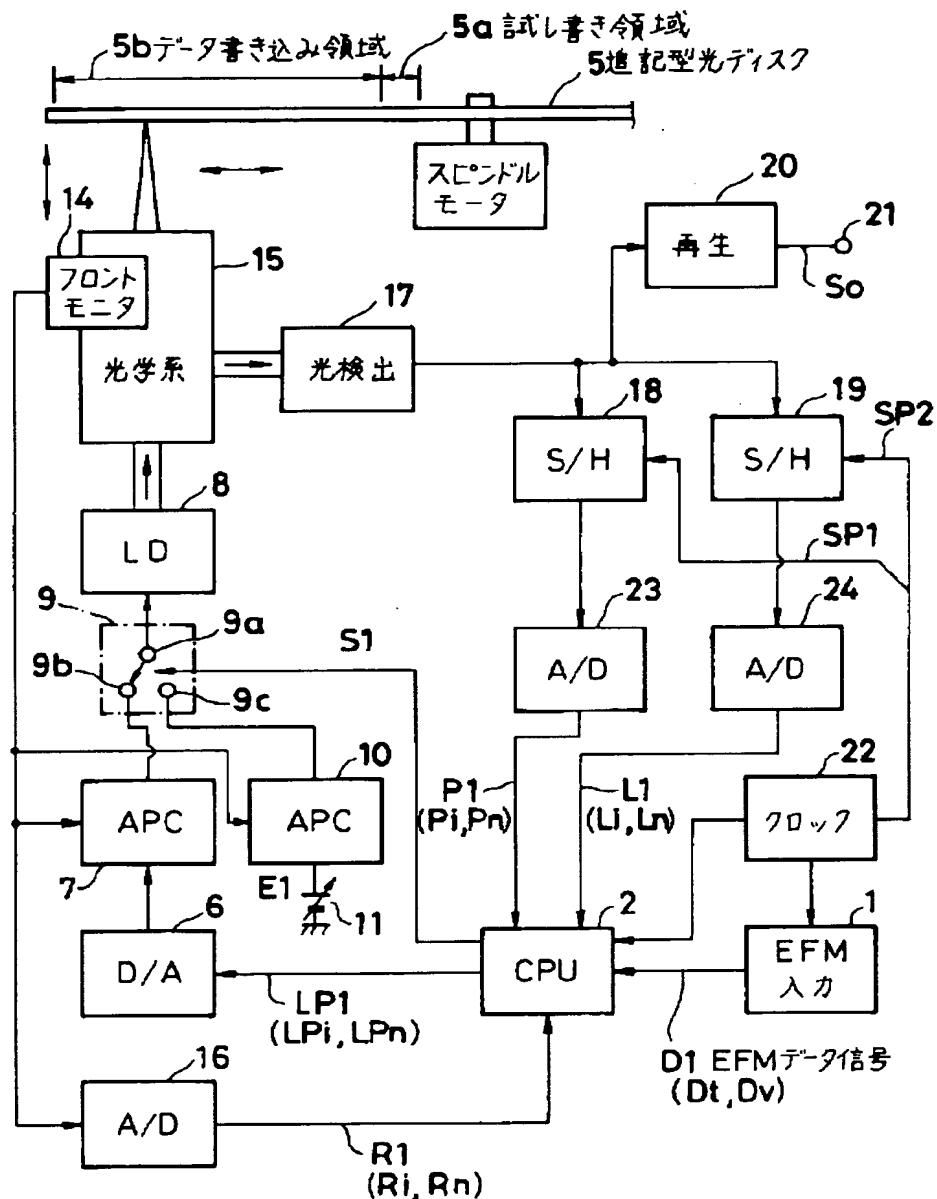
- 1 E FMデータ信号の入力部
- 5 追記型光ディスク
- 7、10 APC回路
- 8 レーザダイオード回路
- 14 フロントモニタ
- 15 光学系
- 18、19 サンプルホールド回路

【図4】



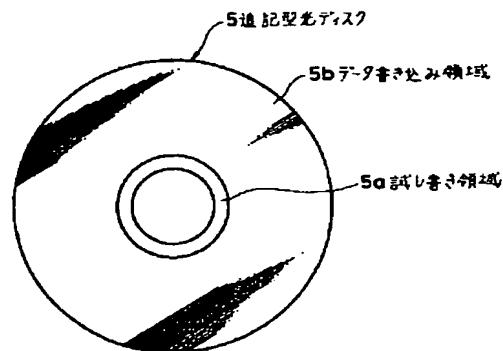
アシンメトリの説明

【図1】



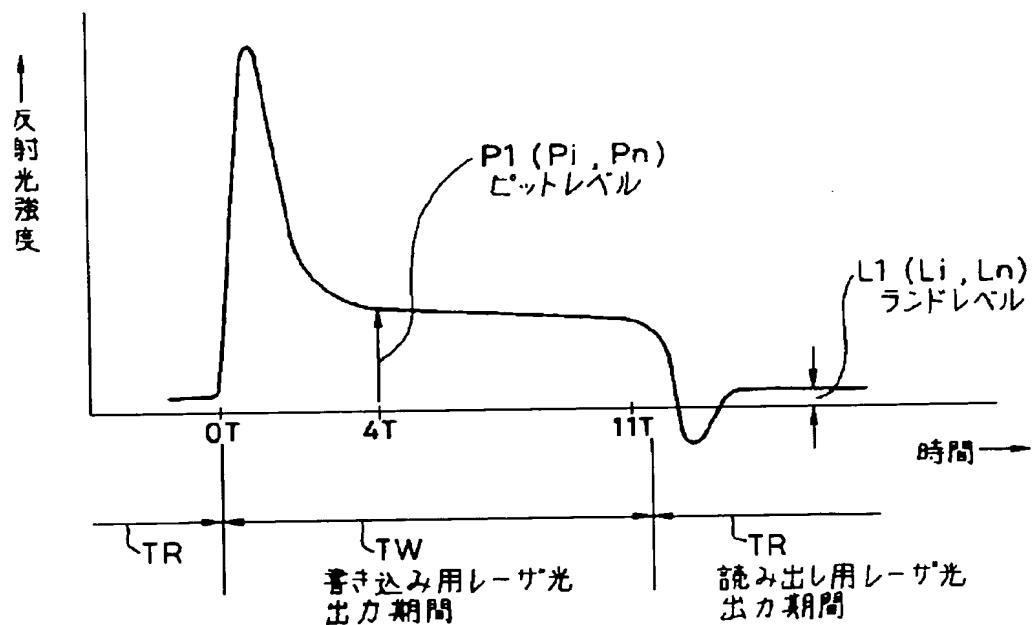
本発明の一実施例

【図2】



追記型光ディスクの例

【図5】



反射光強度特性

【図3】

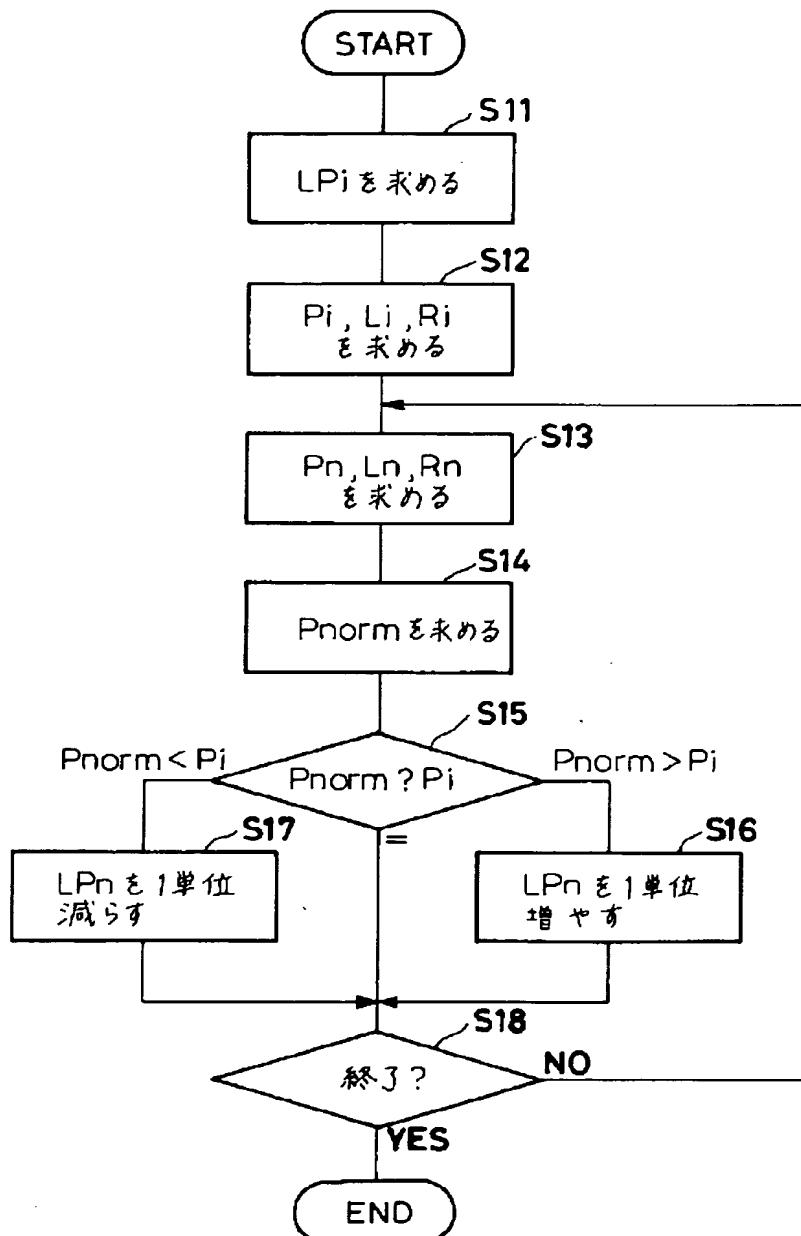


図1例の動作